

保管されている。

戊辰の役で居宅全焼、後に久我通久公に従って奥羽に出征し官軍の治療にあたる。明治七年新潟で死亡。享年四十四歳。

○池田謙齋は恭平の実弟である。緒方洪庵の門下生であり、後に池田玄仲の養子となり長崎に遊学し、ボードインから生理学・眼科学を学ぶ。

明治二年、東京医学校の大助教兼小典医となり翌年ベルリン大学に留学。帰朝後東京帝国大学医学部総理として医学教育の基礎づくりに力をつくした。日本での初めての医学博士であり明治十九年、明治天皇の侍医を拜命している。

○達吉は恭平の長男として生れ、十歳にして父をなくし、十二歳の時叔父の池田謙齋をたより上京し医学を志す。

東大医学部卒業後、ベルツ先生の内科助手となる。明治二十三年、ドイツに留学し内科・病理学の研究をする。明治三十四年東大医学部の教授となり入澤内科医局を創設する。

その後、東京帝国大学名誉教授に推され、大正天皇の侍医頭として天皇崩御まで、献身的に尽力する。

〔新潟県南蒲原郡中之島町中之島三八〇七―三、入澤家顕彰事業実行委員会・中之島町民文化センター ☎〇二五八―六六一三三〇〕

（文責・実行委員会副会長 小坂井昭吾）

日本医史学会九月例会
神奈川地方会第七回学術大会
合同会案内

日時 平成七年九月三十日（土）午後二時三十分より

場所 神奈川県医師会館一階ホール（横浜市西区花咲町）

特別講演 田辺一雄と複十字会 田辺 正忠

一般口演 熱海瀕瀧館について 尺 二郎

前近代の受胎調節をめぐって 新村 拓

鎮将府日誌について 中西 淳朗

名古屋医史談話会第一七回例会

日時 九月九日（土）午後三時～五時三十分

会場 愛知県医師会館（名古屋市中区栄四丁目）

講演 「東三河の蘭方と医師」について 竹内 孝一